

医院だより

令和7年4月(261)

秋山医院

藤岡市小林748-8

☎0274-22-8315

四月 別名 卯月(うづき) 陰暦4月の異名。

ほぼ陽暦の五月に当る。卯の花の咲く月という意味だが、一説には稲を植える月、植月の略であるという説もある。(中略)初夏のもっとも気持ちのいい季節で、弥生から卯月にかけて一年じゅうで日本の花の大部分が咲き乱れる月である。

大仏に傘重なりて卯月雨 (高浜虚子)

(講談社「カラー図説日本大歳時記」)

神流川堤の菜の花



なでしこ

目次

- 1 四月の異称、四月の花、四月の言葉
- 2 四月の暦 お知らせ、
当番医、休診案内、四月からの診療案内
- 3 健康テレフォン、大岡 信選集
けんこう(百八十三)
- 4 **群馬県感染症発生動向調査より**
- 5 院長のひとりごと(229)

「通知表」

『四月の花』

さくら、タンポポ、チューリップ、木瓜(ぼけ)、著我(しゃが)、山吹、蓮華、堇(すみれ)、春蘭(しゅんらん)、一輪草、片栗(カタクリ)、熊谷草、座禅僧、花水木、桜草など、いくつ想い出せましたか？

『四月の言葉』

彼が担ったのはわたしたちの病、彼が負ったのは私たちの痛みであったのに、私たちは思っていた、神の手にかかり、打たれたから、彼は苦しんでいるのだ、と。彼が刺し貫かれたのは、私たちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは、わたしたちの咎(とが)のためであった。彼の受けた懲らしめによって、私たちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。(イザヤ書第五三章四、五節)創世記第三章二三、二四節参照



死と剣とは生命の樹を守って今日に至った。私たちがこれに近づこうとすれば、山は鳴り地は震えて、私たちの手がこれに触れるのを許さない。ああ憐れむべきは樂園を逐(お)われた人類である。けれども一人ある、彼は私たちのために再び生命の樹に達する道を開かれた。ナザレのイエス、彼である。彼は自ら血を流してケルヒムと焰(ほのお)の剣の間に私たちの歩むべき道をお開きになった。まことに血を流すのでなければ道は開けなかった。しかし人が政治的自由を得るために血を流すようにはなくて、彼は独りで自ら私たちの愆(とが)を担い、私たちの罪の祭物(そなえもの)として献げられた。彼によってエデン回復の端緒は開かれた。私たちは失望を去ってよい。神の愛はついにその律法に勝った。焰の剣は今私たちの身に害を加えなくなった。

内村鑑三 二二日 一生(四月八日)

「四月の暦」

- 一日 親鸞聖人誕生会、エープリルフール
- 三日 隠元禪師忌
- 四日 清明 桜花爛漫にして、天地万物が清新の気に満ち溢れること
- 七日 世界保健デー、法然上人誕生会
- 八日 花まつり 灌仏会
- 十一日 メートル法公布記念日
- 十二日 世界宇宙飛行の日
- 十八日 発明の日
- 二十日 穀雨 このころの春雨は田畑を潤し、穀物の成長を助けます、復活祭、郵政記念日
- 二十九日 昭和の日、

お知らせ

一、マイナンバーカードでの受付ができます。カードは保険証の代わりになります。将来的には医療機関は他院での処方や特定検診結果もここから知ることができます。
 まだマイナンバーカードがない方は、月の最初の受診時には、受付に保険証をご提示ください。

二、診療案内

4月から診療時間が変わりました。木曜日は休診となります。

『午後診療』では予約診療と通常診療が受けられます。予約は電話でも受付いたします。

— 診 察 時 間 —

	月	火	水	木	金	土	日祝
8:30~12:00	○	○	○	●	○	○	●
15:00~17:30	○	○	○	●	○	●	●

休診日：木・土曜午後・日曜・祝日

午前：一般診療
 午後：予約診療・一般診療・胃大腸内視鏡

『診療内容』

- 一般外来診療
- 往診・在宅医療
- 骨粗鬆症の検査・治療
- ピロリ菌の検査と治療
- CT, MRI, PETの予約
- 胃・大腸内視鏡
- 肺炎球菌・带状疱疹ワクチンなど

三、当番医 六月二十二日(日)

四、群馬県保険医協会二十四時間健康テレビホン

<http://www.raijin.com/kenko/>

電話〇二七―三三四―四九七〇

月	お子さんの耳は大丈夫？
火	軟らかい食事と消化
水	痛風のはなし
木	口臭の原因
金	五十肩の知識
土日	最新の虫歯の原因について

大岡 信著 『折々のうた』一(春のうたから)

大和は 国の真秀(まほ)ろば

豊(ただ)なづく青垣 山籠(こも)れる

大和(やまと)しづるはし

古事記歌謡

古代伝説の悲劇の皇子倭建命(やまとたけるみこと)が伊勢の能煩野(のぼ)で絶命する

時、故郷をしのんで歌ったものという。「真秀ろば」はマホラ、マホラマと同じで、すぐれた所の意。一首、大和は陸の秀でた所、重なりあう青い垣根のような山々にいだかれた大和こそ、げに美わしいところ、という意味だが、実際は皇子の事蹟とは無関係に、国見の儀式のとき歌われた国ぼめの歌だろうという。しかし、悲運の皇子のいまわのきわの懐郷の歌として読むとき、この歌はまことにあわれ深い。

海だべがど おら おもたれば

やつぱり光る山だたじやい

宮沢賢治

『春と修羅』(大二三)所収の方言詩。題は「高原」。右の続きに次の三行がある。「ホウ／髪毛(かみけ)風吹けば／ししおどりだぢやい」。詩全体は、海かなと思っただが、やつぱり光る山だつたぞ、風が吹けば、鹿(しし)踊りにかぶる面の髪みたいに、神が踊るぞ、という意味だろう。作者賢治が所蔵して書き入れをしていた『春と修羅』では、この詩の上に斜線が引いてあるそうだが、作者の意思いかんとは別に、この方言詩は生きてい

けんこう (百八十三)

群馬県感染症発生動向調査より(13週)

(群馬県衛生環境研究所感染制御センター)

★感染性胃腸炎の報告が続いています。汚染された手・食品・水などを通じて口から感染します。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、消毒薬は塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)が有効です。手指は石鹸と流水でよく洗いましょう。

★全国で麻疹(はしか)の輸入例の報告が相次いでいます。流行国への渡航を予定している方は、麻疹ワクチンの接種歴を確認しましょう。接種を受けたことがない場合はあらかじめ予防接種を受けることを検討してください。

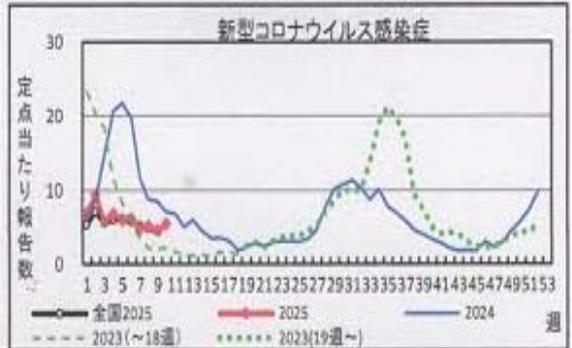
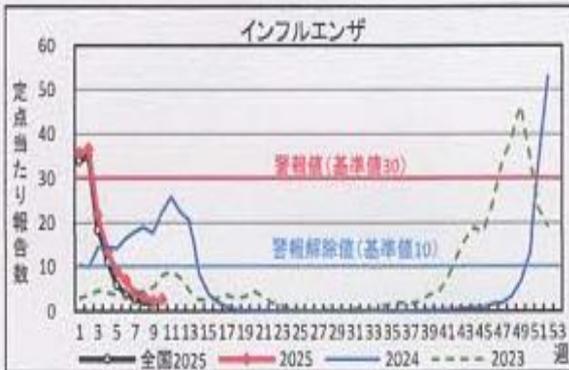
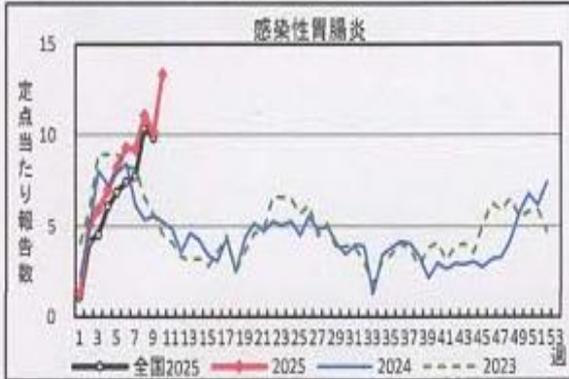
りんどう



■第10週の注目疾病

(定点当たり報告数)

疾病名	9週	10週	定点当たり報告数の多い地域等
感染性胃腸炎	10.15	13.35	館林地域(27.60)、富岡地域(23.00)、伊勢崎地域・太田地域(17.83)
インフルエンザ	2.18	2.68	桐生地域(5.13)、渋川地域(4.00)、前橋市(3.92)
新型コロナウイルス感染症	4.58	5.45	利根沼田地域(13.33)、伊勢崎地域(7.70)、館林地域(6.89)



※2023年第1週から第18週までは厚生労働省が発表した定点医療機関合計報告数と定点当たり報告数(令和4年10月3日～令和5年5月7日の週次データ)から作成



百日咳も増加しています。今後の動向に注意。

通知表

◇平成四年から雪国にある生家を整理している。大儀な仕事であるが、思わぬ過去の人たちの出会いがあり、会話が生まれ、かつて聞いた言葉の意味を数十年後になつてはじめて理解したというような得難い経験もでき、凝りだしたら止まらなくなりそうであった。

◆奥座敷に、父しか開けなかった物入れの棚があったが、そこに、自分の小学校1年から3年生までの通知表が出てきた。母がしまっておいてくれたものに違いない。私が生家の整理に携わらなかつたら反古として処分され、永久に誰の目にも触れることがなかったものである。

◇この小学1年から3年までの3年間はひとりの男性の教師が受け持って下され、両親とはまた又別の目、方向から私の成長過程を観察し、細々(こまごま)と記録してくださっていた。いちいちの出来事を会話もそのままの口調で『…』で囲んで両親に

報告され、直接、間接に私を諭してくださいましたので私が忘れていたこともあり、「ああ、そうだった」と想い出すことが多く、私にとつては、70年近く前の自分と対峙させられるの場面が出現することもあった。

◆1年生の1学期が終わって、はじめて通知表をもらった日の翌朝、母はめずらしく私を揺り起こして布団の上に座れ、といった。「先生は、お前が先生にいろいろなことを話してくれるのはいいが、それが他人の『あつこう』になるのが良くないと言っているよ。」と。

「あつこう？ ってなんのこと？」

「人の悪口(わるくち)を言うということだ」

クサイチゴ



◇それがあってから、ずうっと「人の悪口(あつこう)を言うこと」は許すべからざるほどに卑怯なことだと私の心に刷り込まれ、ついそういう場面に遭遇した後で「悪口」を言ってしまったときは自分の間、悔恨の念にさいなまれることになった。

◆先生が通知表にこのことを記されてから70年近く経って此のことについて先生が書かれている通知表の文章を見つけて初めてじっくり読んでみた。

「母は、まさにこの通知表を見て、翌朝私に語ってくれたのだ」

という思いがした。母はそのころはまだ、武士の娘然としていて、「陰で悪口を言うというような卑怯なことはするな」と末っ子のお灸をすえたつもりであったのだろう。

しかし、今回、先生の文章をしっかりと読んでみて母からの話とニュアンスが少し異なり、批判する相手を否定するではなくその人とも良い展望が開けるような批判をすべきだという内容であるような気がした。

◆「朝の話のときなどよくいろいろな話をしてくれるのですが、友だちの欠点を言うて困らせるというところがみられます。

「ともだちが(う)いう(こと)をした」と話すの

「はいなのですが「どうしていけないのか」「どうして(その行いを自分は)いい(と考える)のか」という過程がないと単なるあげ足取りとなりますので、こんなところも気を付けさせたいと思います。」

◇1年生の時、このような評価をしてくれ、「他人を批評しやすい」がそのことを注意されると拗ねやすい私の心情を曲げずにまっすぐに戻そうと苦心されていた人がおられたことは、なんと有難いことだったのだなあとあらためて思いました。しかしこのことがあってから、わたしは用心深くなり、あまり人前で意見を言わないようになった気がします。

ムラサキカタバミ



◆「他人の批評」の次か、または「一番大切なこと」として先生が私に注意をしてくださったのは、わたしの『漫画好きと、そのこと』で、たとえば図工で描く絵が乱雑になってきて図画の表現のしかたがゆきづまってしまっていて困っています」とここでも心配してくださっていました。

◇これに関しては他のところでも

『指導力も増し、自分から何かやりとげようとしています。ただ一つ注意したいことは、マンガにおぼれていることです。』

この間、紙芝居をしてくれたのですが、マンガを紙芝居に仕組み、セリフもマンガのセリフをそのまま使っていました。あれは文章ではなく稚せつな叫びでしかないものです。「だーん、バリバリ。船が割れる、アッ」といったたぐいのもです。もっと正常なものに頭を向けさせたいものです。』

◆そこで私はつまらない反抗を試みたのです。それについて先生は真正面から答えてくれました。

『典夫くんは「大人もマンガを見るがあれはどういうんだ(大人ならマンガをみてもいいというのはおかしい)」と聞きますので

こう答えておきました。本には、ゆっくり休もうと思ってみる本と、勉強のためになる本がある、大人がたまに見るのは前者なのだ。……どうでしょうか、このころは家ではマンガ本に熱中していないでしょうか。学校ではあまりみられませんか。』

庚申山のつつじ



◆先生が感じて心配されていたことは、杞憂ではなかったと思います。私自身その後、世の中に出ていろいろな方とお話しているときに、自分ではおよびもつかぬほど内容の深い話をされる方に出会ったり、難

しい講義でついていけない時に周りの人の反応を見ていると、内容が分かりうなづいている人が多かったのに驚いたことがしばしばありました。

◇こういう経験は高校までの授業ではあまりなかったことで、人の話を聞いて反応する理解力が低いことに気づきました。これは先生がご指摘のように自分のマンガへの没頭が読解力を付ける時期に内容の深い読書をしていなかったことが原因だったと思つています。これが先生の『マンガへのめり込み』を心配された所以(ゆえん)だったのだと今になって理解できたのでした。

◆忘れ去っていた通知表との再会が、自分の師との再会でもあり、その中でも①他人の批評②漫画文化というような安逸な道を選ぶと人生の深い意味を味わえないよ、ということを教えてくれたのでした。

◇私の物心がついたころの性癖は私の本来のものであったらうから、今の私の本質も先生が私を観察されたころの自分とはそれほど遠くはなれていないだろ

うということを考えて、私に残っている人生の終末だけでも『私Ⅱ先生』の思いにしたがって生きてみなさい、という先生の言葉を、通知表との遭遇が偶然であっただけに「今のじぶん」に対する先生の最後のメッセージとして受け止めることができました。

亀の親子(竹沼にて)



ヤマツツジ



ムラサキケマン(紫華曼)

